第 19 回 「まちの活性化･都市デザイン競技」の結果概要

主　催：まちづくり月間全国的行事実行委員会、公益財団法人都市づくりパブリックデザインセンター
後　援：国土交通省、千代田区
事務局：公益財団法人都市づくりパブリックデザインセンター

■趣　旨

これからのまちづくりにおいては、そこに生活し活動していることの豊かさが実感でき、誇りのもてる優れた景観を備えた環境整備が重要になっています。現代の活動にふさわしい新たな都市景観の形成には、まちの歴史や環境に配慮しながら、その都市固有の品格を備えた洗練された表現と演出が求められ、その魅力が都市に活力を呼び戻し、新たな賑わいを伴って、まち全体が活性化していくことが期待されます。

こうしたまちづくりの基本的課題を踏まえ､本「まちの活性化・都市デザイン競技」は、地域にふさわしい整備構想とまちのデザインについて広く一般から提案を募り、まちづくりに対する国民の関心を高めるとともに、活力ある美しい景観を備えたまちづくりの実現に寄与することを目的として、平成 10 年度より毎年実施しています。

■対象地区

今年度の対象地区は､北の丸公園周辺のゲートとなる緑豊かな場所である九段坂周辺と飯田橋地域周辺を結ぶ街路及びその周辺を含む「飯田橋・北の丸公園周辺地区」（約 66ha）を対象地区に選定しました。

■募集内容

１．対象地区の現況と課題、整備の方針

対象地区は、「飯田橋地域」と「北の丸公園地域」が隣り合った地域であり、北側部分に当たる飯田橋地域は、平成 18 年 6 月に飯田橋・富士見地域まちづくり基本構想が示されており、その中で地区の将来像は､「教育施設と地域とが連携・協調するまちづくりの展開」「都心における多様な居住の推進」「地域の緑を活かし高める、潤いのある街並みの形成」とあります。また、南側の北の丸公園地域は千代田区都市計画マスタープランで､「快適で魅力的な大規模公園・緑地空間の保全と一層の活用」の課題とされており、今後とも魅力的な空間としていくことが重要とされている箇所です。

千代田区では、対象地区の一部である北の丸公園周辺が 2020 年の東京オリンピックの会場となることを見据え、既に公共空間等の整備を進めており、千鳥ケ淵緑道においては、地域の人々に、いつでも安全で快適な憩いの場を提供するため､『千鳥ヶ淵四季の道』として再整備したところです。地区南を東西に走る代官町通り（区管理）についても既に改修のための検討・設計が進んでおり、オリンピック会場の一つとして開催に恥じる事のない道路づくりを目指し、多くの観光客等の受け入れる準備を進めています。

その一方で、東京オリンピック開催以降においても観光客等の回遊が盛んに行われるのかは、現在の状況では図り知ることはできません。

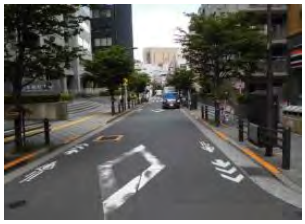
そのため、区では、北の丸公園周辺のゲートとなる箇所で足を止め、そこから、北の丸公園を中心とした周辺回遊へと誘導していくことを重要とし、また、千代田区内に多数ある交通結節点となる鉄道駅から桜の時期だけでなく、時期を問わず、多数の観光客等が北の丸公園や千鳥ヶ淵等を行き来する何らかの方策を講じていくことが必要と考えています。

本競技では、北の丸公園周辺の各ゲートとしてふさわしい姿やデザインの提案、北の丸公園周辺へ四季折々、人が回遊し、東京オリンピック以降も観光客等、人の絶えない場所としていくための方策、また、北の丸公園周辺のゲートの一つである九段坂周辺と区内様々な公共交通機関が５００ｍの範囲で点在し、接続する中で、その中で最も大きな交通結節点となる飯田橋方面への誘導として、周辺街路を中心とした箇所を利用していくことで、観光客等、人の絶えない、回遊性の高い場所としていくための方策等、当該地域における、様々な都市デザイン・整備の提案をいただき、将来のまちづくりに活かした

いと考えています。

最後に、飯田橋・北の丸公園周辺地区については、その一部（皇居とその周辺地域）が、皇居を中心に千代田区はもとより、日本を代表する美観となっていることから、昭和８年に、美観地区として定められています。そのため、提案にあたっては美観地区に関する景観的な配慮もお願いします。

北の丸公園地域



飯田橋地域

２．提案募集の内容

本競技は、上記の現況と課題及び整備の方針等を踏まえた上で、飯田橋周辺から北の丸公園周辺の回遊性向上と北の丸公園周辺に人を呼び込むための仕組みづくりの実現に向けて、対象地区の様々な都市デザイン・整備アイディアついて、次のような提案を求めたものです。

○地域特性を活かした公共空間のランドスケープデザイン

地域の特色である歴史性や緑豊かな空間を活かしながら、歴史が重畳する北の丸公園周辺にふさわしい風格のあるランドスケープデザインを求めます。なお、北の丸公園内の主要な建物や施設、中心的な道路については、現状の形態、用途等を変更しないものとします。

○北の丸公園周辺南側ゲートと飯田橋地域を結ぶ街路周辺の活用について

北の丸公園周辺南側のゲートとなる区立九段坂公園周辺へは、そこに繋がる区道 269 号線（通称名　早稲田通り）がありますが、区内において様々な公共交通機関が点在し、接続している中でも最も大きな交通拠点である飯田橋駅へと繋がる通りです。（JR 飯田橋駅は現在、西口広場、ホームの延伸等の工事が進んでいます。）北の丸公園周辺と飯田橋地域を結ぶ重要な街路として周辺を含めて、人の溜まる魅力的・効率的な行き来の可能な空間づくりについての提案を求めます。

○観光資源の活用・運営、地域回遊性向上のためのアイデア

貴重な観光資源である北の丸公園、千鳥ヶ淵等の魅力を活用・運営するアイデア、誘導のためのアイデア、訪問する観光客や散策者が四季折々にも回遊したくなるような歩行者ネットワーク構築のためのアイデアを求めます。

○提案全体の基本的な配慮事項

飯田橋・富士見地域まちづくり基本構想や都市マスタープランで示す当該地区におけるまちづくりの方針を尊重してください。

３．応募図書

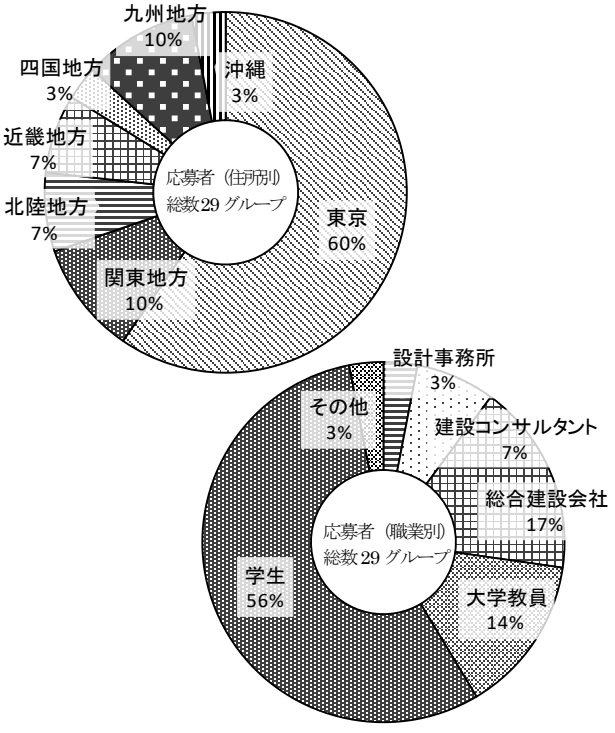
上記の募集内容に即して、対象地区の整備構想、主要な提案空間のデザインイメージ、実現化方策などをＡ２サイズのパネル２枚に表現したものと、提案の要旨をＡ４サイズ１枚にまとめたものを応募図書として提出を求めました。

■スケジュール

応募登録	平成 28 年	9 月　5 日（月）
		～10 月　3 日（月）
現地説明会	平成 28 年	10 月 24 日（月）
質疑応答	平成 28 年	10 月 24 日（月）
		～10 月 31 日（月）
作品提出	平成 29 年	1 月 13 日（金）
		～ 1 月 19 日（木）必着
審　　査	平成 29 年	2 月 27 日（月）
表　　彰	平成 29 年	6 月（予定）

■応募件数・応募者の属性

事前の応募登録数が 64 グループあり、最終的に提出された応募作品数は 29 でした（応募者の属性は円グラフを参照）。



■審査委員会及び結果

１．審査委員会

委員長　西村幸夫　東京大学教授
委　員　石川幹子　中央大学教授
　　岸井隆幸　日本大学教授
　　高見公雄　法政大学教授
　　藤本昌也　建築家
　　英　直彦　国土交通省市街地整備課長
　　石川　雅己　千代田区長

審査方法等の確認：審査を始めるに当たって、審査の内容・方法等について確認されました。

第一次審査：審査委員が各作品を一通り閲覧したうえで、一回目の投票が行われ、有望作品として十数点あげられました。

第二次審査：有望作品一つ一つについて議論された後、二回目の投票により入賞候補作品が絞り込まれました。

最終審査　：入賞候補作品を並べて、相互に比較検討しながら大臣賞をはじめ各受賞作品が選定されました。

２．審査結果

審査委員会での審査の結果、下記の入賞作品が選定されました。

※千代田区特別賞は千代田区により選定されました。

○国土交通大臣賞（1 点）
…… 賞状及び賞金 50 万円

（東京大学大学院工学系研究科都市工学専攻
都市デザイン研究室）
三文字昌也、永野真義、神谷安里沙、
田中雄大、籔田航平

○まちづくり月間全国的行事実行委員会会長賞（1 点）
…… 賞状及び賞金 25 万円

（株式会社竹中工務店）
栗田純吾、市川雅也、加藤実悠、神戸寛貴、
吉村真吾

○(公財)都市づくりパブリックデザインセンター理事長賞(1点)
…… 賞状及び賞金 15 万円

（株式会社日建設計）
柄澤薫冬、岩井都夢、青山春奈、佐藤孝祐、
平井健太、鈴木彩香

○奨励賞（2 点）　各賞状及び賞金 10 万円

［奨励賞１］
（横浜国立大学大学院都市イノベーション学府
都市計画研究室）
牛木伸行、小松﨑陵太、横尾拓実、森本舞香

［奨励賞２］
（東京工業大学環境・社会理工学院 中井研究室）
小泉恒紀、青木真理恵、勝浦裕平、長瀬健介

○千代田区長特別賞（1 点）　賞状及び記念品

（東京大学大学院工学系研究科社会基盤学専攻）
渡部美香、坂本いづる

■入賞作品の概要

入賞作品の概要は次頁以下の通りです。詳細は（公財）都市づくりパブリックデザインセンターのホームページ（下記ＵＲＬ）をご覧ください。

http://www.udc.or.jp

国土交通大臣賞

応募者：
（東京大学大学院工学系研究科都市工学専攻都市デザイン研究室）
三文字昌也、永野真義、神谷安里沙、田中雄大、籔田航平

テ ー マ： 「街郭（がいかく）をわたす楔（くさび）」

主な提案： 【空間に施す操作】

	「郭」を際立たせ魅力的にする	「楔」を打ち込み領域をつなぐ
目的	「郭」に沿って動線をデザインし**回遊性向上** 「郭=街の敷居」を際立たせることで**風格を演出**	集まる「楔」を増やして**回遊性向上** ヴィスタ・正面性の強調で都市景観の**風格を演出**
小スケール	敷地境界とその塀を使う	敷地前の空間をつなぐ
中スケール	北の丸公園を囲む郭にアクセスしやすくする	道へ向かって染み出る「知」と「礼」
大スケール	東京の骨格たる郭を魅せる	東京の郭を繋ぐ大きな楔

【街の将来像】
「郭」と「楔」をキーワードに、空間デザインを行うことで、学校などの「知」の空間と神社や教会などの「礼」の空間をさらに外に開き、常態的に起こっている活動をきっかけとして、季節の折に触れて起こる活動をも引き込む

審査講評

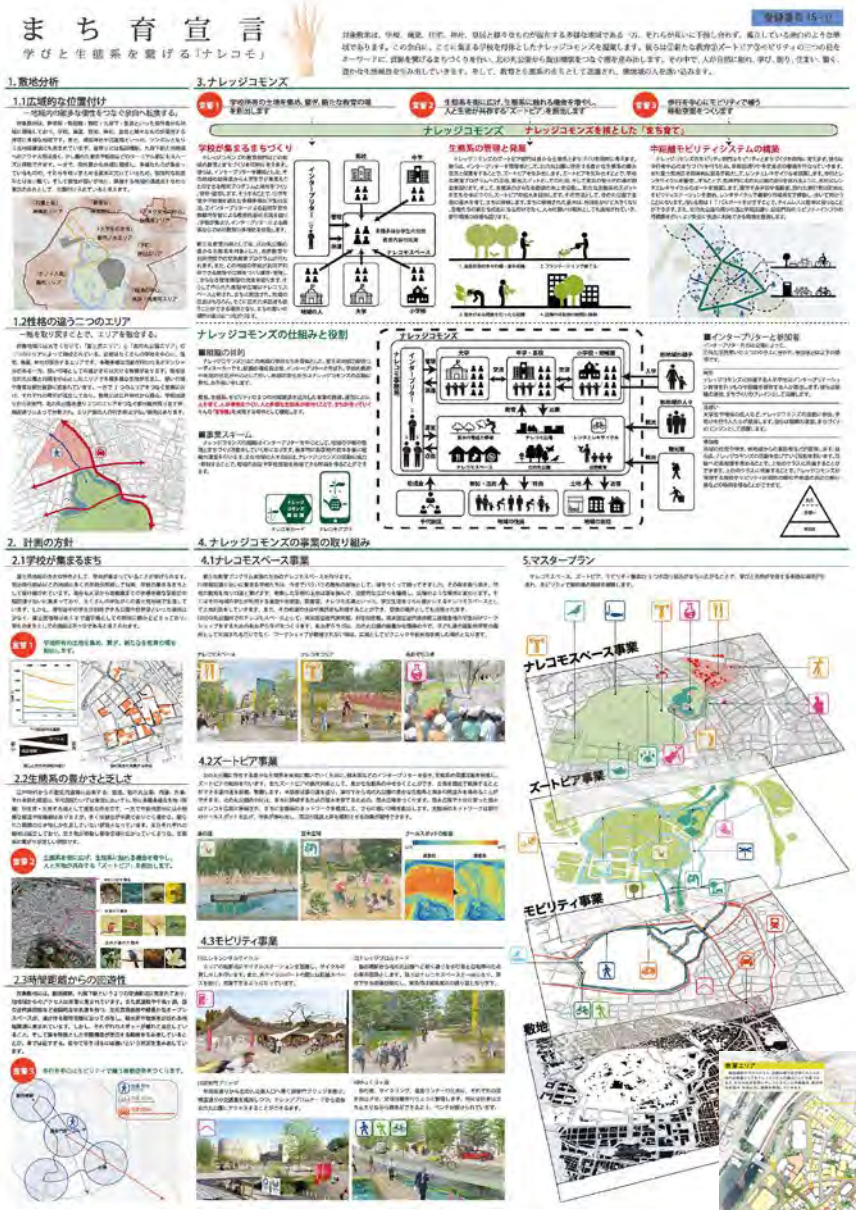
地域の緻密な分析をもとに、与えられた課題に正面から向き合い、整合性のとれた魅力的な提言を行うことに成功している。まちの文脈を読み込み歴史資産等の活用で、街の歴史を活かしつつ誰にでも分かり易いキーワードを設定し、手堅くまとめあげた優れた作品である。「郭」と「楔」をキーワードに、分かり易いコンセプトやアイデアに富んだ、全体的に無理なく実現可能な規模、内容の提案である。

田安門前および飯田橋駅西口の橋詰広場についても具体的に表現され、特に、「二合半坂」に着目した点もユニークであり、早稲田通りとあわせてループ状をこの地区一帯の“地”の基本舞台としてまちの魅力ある“空間装置”として登場させたことは、途中に大神宮もあり極めて妥当な視点である。また、楔として千鳥ヶ淵や乾門など幅広い周辺とのネットワークを位置づけ、加えて、山口事務所の活用を含む石段ステップ、九段広場の計画は秀逸と言える。

惜しむらくは、街の将来像の「知と礼」・「常と折」や郭の空間的概念が明確ではなかった。今後は、この“空間装置”をいかに地元の協力、合意を経て実現していくか、全員参加型のこれからの新しい事業手法を提案、実践してほしい。

まちづくり月間全国的行事実行委員会会長賞

応募者：　（株式会社竹中工務店）
栗田純吾、市川雅也、加藤実悠、神戸寛貴、吉村真吾



テ ー マ：

「まち育宣言 -学びと生態系を繋げる「ナレコモ」-」

主な提案：

対象敷地は、学校、商業、住宅、神社、皇居と様々なものが混在する多様な地域である一方、それらが互いに干渉し合わず、孤立している余白のような地域である。この余白に、ここに集まる学校を母体としたナレッジコモンズを提案する。

・学校が集まるまちづくり

この地域の学校が共同で利用できる施設や広場をつくり、①学年間や学校間を超えた多種多様な学生の交流、②インタープリターによる自然学習や体験学習による教育内容の充実を図る。

・生態系の発展と管理

北の丸公園に存在する生態系の最大活用と保護をすることで、ズートピアを生み出します。そして、新たな生態系のスポットをまち全体につくり、ズートピアを拡大する。

・中距離モビリティシステムの構築

効率的に北の丸公園を巡れるように、レンタエレキサイクルのポートを設置する。また各所で交通分離を行い、通行者の速度に合わせた道を選択することができる。

審査講評

地域の分析をもとに、土地利用、生態、交通の３層に区分して地域をとらえ、総合的に課題に応じ、提案をナレッジコモンズの事業としてまとめ、生態系にも配慮した多彩な提言を行うことに成功している。

更に、企業、市民が納得できる共通の理念として、“境界”のしがらみを開放し、敷地境界の意識をなくして“共”の空間をつくり、まちの新しいポテンシャルを引き出すことにも成功している。

モビリティ、ズートピア、ナレコモスペースというレイヤーを提示した分かり易い構成、早稲田通り周辺に立地する学校群の連携によるナレッジコモンズ活動により、まちの活動やプロムナードの連携を図る提案がなされている。また、人と自然の回遊性を回復するため地域の生態系の保護、活用に関する提案も行われている点も評価された。

ただ、ズートピアという用語は分かりに難く、また、北の丸と飯田橋エリアをつなぐブリッジは文化のレイヤーを強化し掘り下げるべきである。更に、いかに仕組みを整えようとも早稲田通りの全面歩専化、車両進入は緊急時のみという提案には疑問が残った。

(公財)都市づくりパブリックデザインセンター理事長賞

応募者： （株式会社日建設計）
柄澤薫冬、岩井都夢、青山春奈、佐藤孝祐、
平井健太、鈴木彩香

テ ー マ： 「わがまちを経て、営む」-早稲田通りに主体性を取り戻し、空間からまちを醸成する手法の構築-

主な提案： **〈まちの提案の骨格〉** 本提案では、地形や大通りに囲まれ、同じ氏子範囲のエリアを、一体的に考えるべき**ひとつのまち**として捉え、エリアの将来像を描く。**早稲田通りは、このまちの中心を通る軸**となる。これらを踏まえ、中心軸：早稲田通り沿道のマネジメントと、具体的空間の改修・マネジメントの提案を行う。

〈空間×まちの提案の骨格〉

Ⅰ.氏子 BID の提案：古くからの地縁に配慮しつつ新たな人も主体となれる新しい都心型コミュニティにあり方として、築土神社を中心とした新規 BID 組織の立ち上げによるマネジメントを提案する。

Ⅱ.桜を中心とした植栽計画の提案：早稲田通りでは、分断された外堀・千鳥ヶ淵からの桜を核とする緑の軸をつなぎ、歩きたくなる歩行者空間を創出する。

〈空間の提案の骨格〉

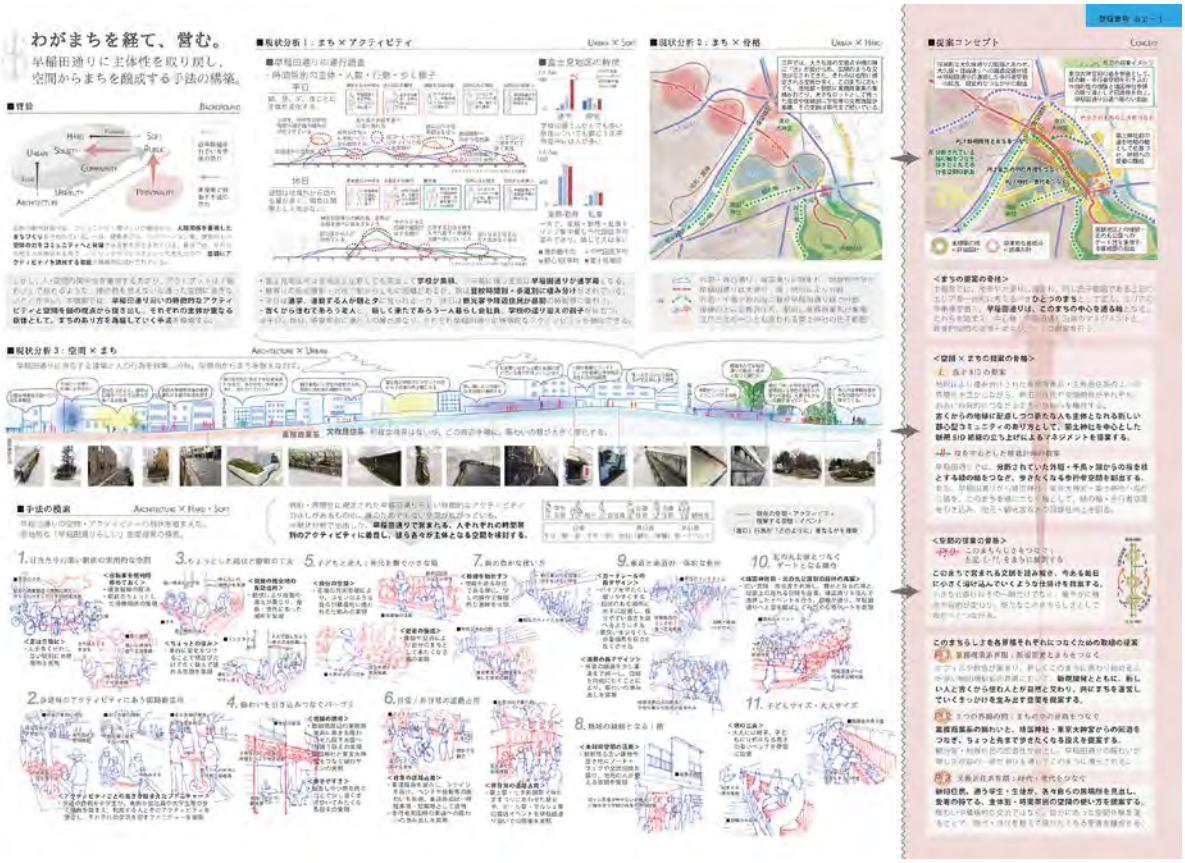
Pj.0：このまちらしさをつなぐ：このまちで営まれる文脈を読み解き、今ある毎日に小さく溶け込んでいくような仕掛けを提案する。

◆このまちらしさをつなぐための取組の提案

Pj.1：業務商業系界隈：新規開発とまちをつなぐ

Pj.2：2つの界隈の間　：まちの中の界隈をつなぐ

Pj.3：文教居住系界隈：時代、世代をつなぐ



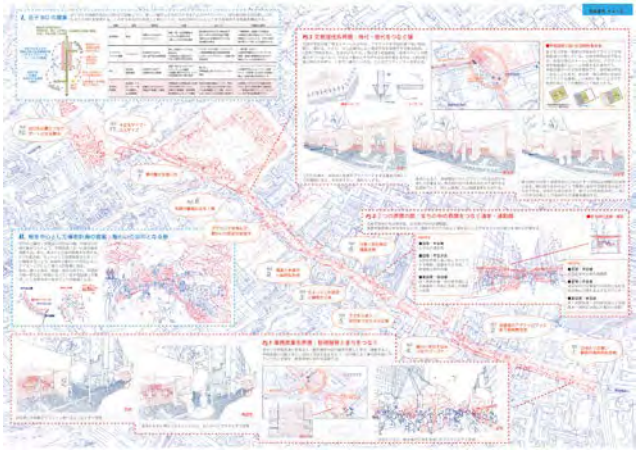
審査講評

全体に手描きのイラスト・アクソメで描き込まれ、アクティビティに着眼し、早稲田通りの賑わい創出の手立てが楽しく表現されている点が際立った作品である。

アプローチが独特であり、氏子 BID という新しい仕組みを活用し、沿道の関係者が協調して企むことによって人々が賛同する楽しい場、魅力的な生活の場が生まれることを信じて、精力的に様々なまちの部分を開示、提供する戦略を採用している。このゲリラ的とも言える闘い方が審査委員の共感を呼んだ。“全体から部分へ”のマスタープランに加え、“部分から全体へ”が注目される時代に相応しい提案である。

本提案の特徴は多種かつレベルの高いドローイングにある。一つの通りが生き物の様に描かれ、手がとどくように場面場面のあり方を図示し、説得する技法は今後益々重要なツールになるだろう。加えてドローイングが漫画的でない点を評価する。

早稲田通りを主体とする提案であり、北の丸公園、飯田橋駅という重要なコアに対する提案が少なかったのが残念である。また、多様なものを並べるだけでは混沌であり、これらをどの様に動かすことが可能か、都市デザインには戦略が求められる。



奨励賞

応募者： （横浜国立大学大学院都市イノベーション学府
都市計画研究室）
牛木伸行、小松﨑陵太、横尾拓実、森本舞香

テ ー マ： 「つながるみち、出会いのまち」

主な提案： それぞれのエリアが多彩な周辺資源と連動しながら、回遊性を高め地域と地域をつなげるような、様々な人々の活動をゆるやかに受け止める都市空間の構築を目指す。その中では、ハード整備と並行して、人々がまちを使い、まちで自らやコミュニティを育めるようなソフト整備も含めた暮らしやすい都市づくりを進める。

◆PROJECT 001：田安門前交差点整備による地域間の連続性創出
靖国通りで分断されてる富士見台地区と北の丸公園を結ぶエリアを再整備する。区立九段坂公園、現在未利用地の消防署跡地を一体的に整備した人の居場所として観光インフォメーション、カフェ・学習ラウンジ、ラン・サイクルステーションを整備する。

◆PROJECT 002：富士見台地区「みちまち」マネジメント
北の丸公園周辺と飯田橋駅を結ぶ軸となる早稲田通りの魅力向上と早稲田通りに接続する性格の異なる「よこみち」の整備によって観光客や日常的な周辺利用者にとっての魅力を高める。

◆PROJECT 003：水辺＋緑道の有効活用による北の丸公園周辺のゲート性・回遊性づくり
公園外周から内部への誘引力向上と外周部分の観光客や日常的な周辺利用者にとっての魅力を高める事を目的として、公園の新たなゲートづくり、牛ヶ淵に親水デッキを設けるなどの公園外周部分の歩いて楽しい歩行空間づくりを行い。

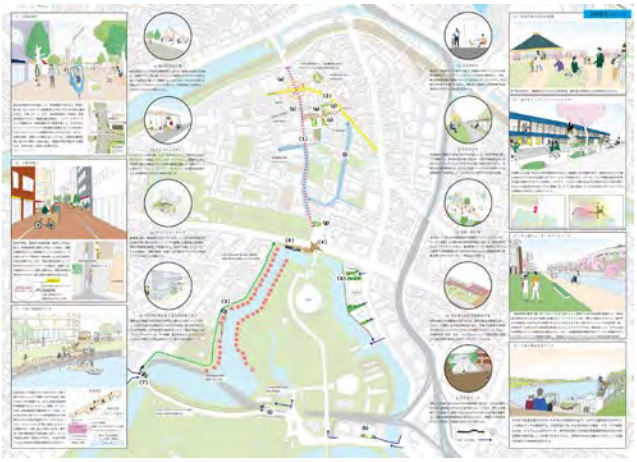
審査講評

早稲田通りにつながる「よこみち」に着目し、面的に広がるユニークな提案である。

「みちまち」マネジメントと題し、飯田橋方面から北の丸に向かって沿道を幅広く捉え、エリア全体の回遊性を高める提案であり、特に、早稲田通りに接続する「よこみち」の整備による魅力向上の提案は斬新で、交流に拠点となる“空間装置”を場所の特性に応じて埋め込んでいる手法を評価した。

また、外濠の外周の民地部分の空地や建物の在り方にも配慮している点がランドスケープデザインとして極めて大事なことで、その点についても配慮されている点も評価できる。

複雑な課題を分かり易い提案でまとめられ、それぞれに明確なプロジェクトを戦略的に設定されたものの、飯田橋駅前と田安門周辺に関する提案が弱かった点が残念である。また、“都市デザイン”の核心である 2 枚目の図面の明確化が望まれた。加えて、靖国通りとの交点の歩道橋の提案は安易であり、せっかくの九段インフォメーションセンターへの接続はギクシャクしたものになってしまった。



奨励賞

応募者： （東京工業大学環境・社会理工学院 中井研究室）
小泉恒紀、青木真理恵、勝浦裕平、長瀬健介

テ ー マ： 「だんだん広がる、わせだみち -多様な生活者が緩やかにつむぐ、日常と非日常のあいだ-」

主な提案： 早稲田通りの参道性を読み解き、その延長線上である北の丸公園やその周辺部分を、それぞれの個性に合わせて一体的にデザインしていく。つまり、街路のデザイン及びマネジメントを通した、50 年後の早稲田通り及び周辺一帯の空間像を提案する。

街路空間の物理的、意味的な拡張と、その空間と周辺における回遊性向上をもたらす仕掛けの数々が、人々のアクティビティを許容し、ここにしかない新たな価値が、早稲田通りを中心に広がっていく。

【早稲田通り】

◆早稲田通りの広がり
街並み誘導型地区計画を設定し、建物の更新期に合わせた段階的なセットバックを行う。
・歩道側に2mセットバック
・飯田橋から靖国通りまでのコミュニティ街路化

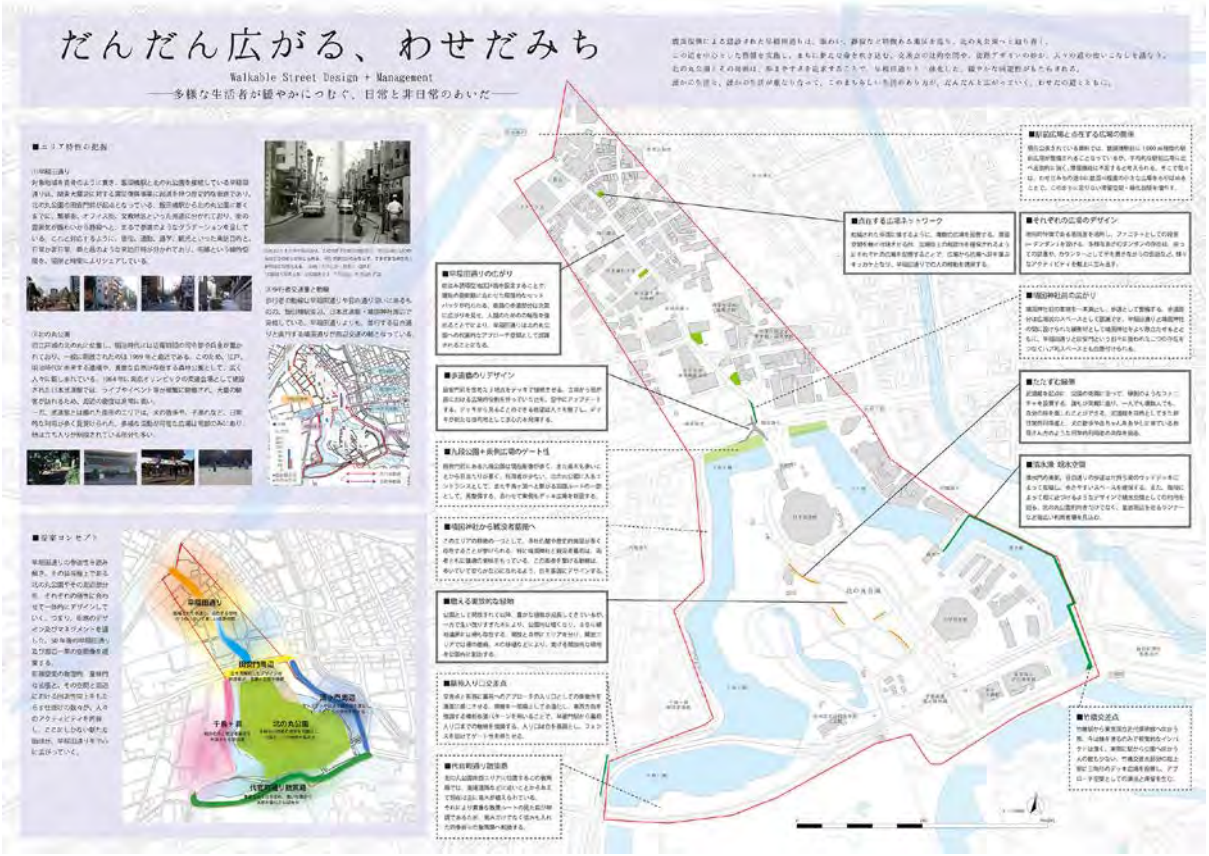
◆点在する広場ネットワーク
拡幅された歩道に接するように、複数の広場を設置する。広場同士の視認性を確保するように広場を配置し、早稲田通りでの人の移動を誘発する。
・段差形式のだんだん広場モジュール

【靖国通り】

◆歩道橋のリデザイン
田安門を含めた3地点をデッキで接続させる。古来から我が国における広場的役割を持っていた辻を、空中にアップデートする。
・滞留、休憩できる空中広場
・緑を繋げる歩道橋の緑化

【北の丸公園外周】

◆清水濠 親水公園
歩道を片持ち梁のウッドデッキによって拡幅し、歩きやすいスペースを確保する。また、階段によって堀に近づけるようなデザインで親水空間としての利用を図る。
・清水濠ウッドデッキ



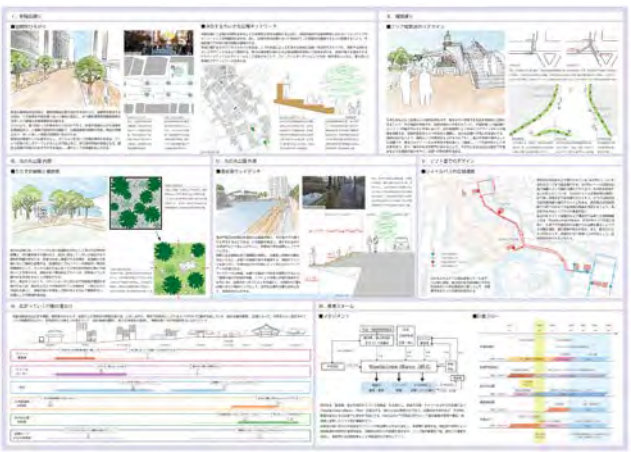
審査講評

多様な人的行動の重なりが広がっていくという戦略をもとに提案をまとめている点は、他にない独自のものである。

飯田橋から北の丸に向けて徐々に広がっていく地域の特色をシンプルなテーマとして取り上げ、分かり易いコンセプトで課題に迫り、それを分かり易くプレゼンしている。

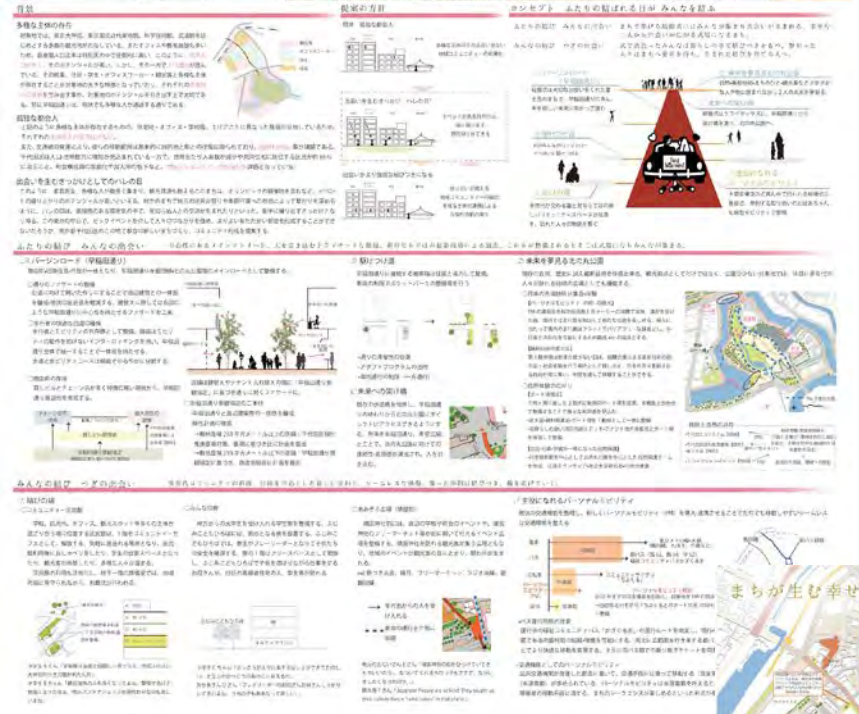
飯田橋駅から北の丸公園で向かう早稲田通りに沿ってまちを読み解き、周辺の建物の立地等により、通りが広がりを持っていく早稲田通りの特性をよく捉えて、通りの拡張や回遊性の向上をもたらす仕掛けとして課題とされた解答を与えていった成果を評価する。

惜しむらくは、それを支える空間のディテール（早稲田通り、北の丸公園）、説得力が弱かった。マクロとミクロの両方からの攻めが都市デザインには要求される。また、公共施設の管理主体に着目して、今回の主体である地元区がなすべきことに焦点が絞られるとより良いものになったと考える。



千代田区長特別賞

応募者：（東京大学大学院工学系研究科社会基盤学専攻）
渡部美香、坂本いづる



テ ー マ：

「Wedding for this Town
-ふたりの結ばれる日がみんなを結ぶ-」

主な提案：

◆ふたりの結び　みんなの出会い

中心性のあるメインストリート、引き込むドラマチックな動線、東京ならではの最新技術による演出。これらが整備されるとそこは式場となりみんなが集まる。

A：**バージンロード（早稲田通り）：**商店街・近隣住民・行政が一体となり、早稲田通りを飯田橋・北の丸公園間のメインロードとして整備。

B：**駆けつけ道：**早稲田通りに接続する細街路は住民と協力して整備。

C：**未来への架け橋：**既存の歩道橋を改修し、早稲田通りの終わりから北の丸公園にダイレクトにアクセスできるようにする。

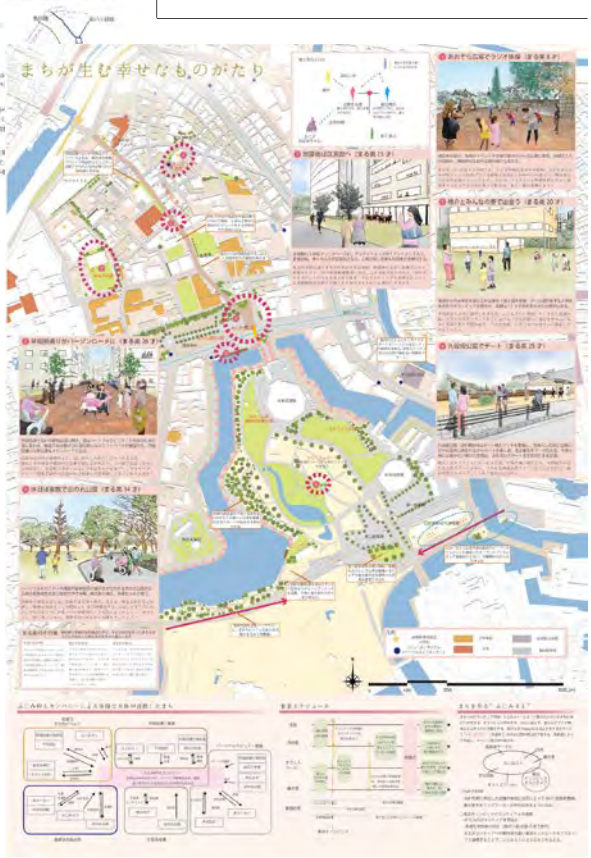
D：**未来を夢見る北の丸公園：**現在の自然、歴史に加え最新技術を体感でき、観光客も住民も訪れる広場。

◆みんなの結び　つぎの出会い

多様なコミュニティの形成、住民を中心とした新しい交わり、シームレスな移動。集まった仲間は結び、輪を広げていく。

E：**結びの場：**多様な人々が出会いを交じり合う施設や広場を街中に散らばる。

F：**主役になれるパーソナルモビリティ（PM）：**現状の交通機能を整理し、新しくPMを導入、連携される事でシームレスな交通環境を整える。



審査講評

テーマを「Wedding for this Town ―ふたりが結ばれる日がみんなを結ぶー」とし、一人の人物が生涯を通じてまちの中で生活をしていくストーリー性を持った提案であった。住民や在勤・在学者、来街者等の多様な主体による地域コミュニティの希薄化といった課題を的確に捉え、人々の出会いを生むきっかけとして、早稲田通りのバージンロードでの活用や人々が出会い交じり合う空間をまち中に設けるなど興味深いものであった。

地域のパブリックスペースを活用し、イベントをきっかけとして、街に繰り出すことで顔見知りをつくり、ひいては地域コミュニティの強化や主体的なまちづくりへの参加などにつなげていくことは、重要な視点であると考えられる。

また、多様な主体の連携を図るため、具体的な組織やスケジュール等のシステム構築の手順まで提案があった。ハード面の対策だけでなく、住民や在勤・在学者等の地域で活動する人々と行政の協働に着目し、ソフト面からのまちづくりへのアプローチを主体とした独創的な魅力ある提案であった。